

日本の研究活性化に向けて

2018-10-1 辻井重男

研究文化への認識・普及が望まれる

朝日新聞 2018-9-26～ 朝刊

教えて 日本の「科学力」

- 論文引用数(2013年-15年) 日本9位
- イタリア、カナダ、オーストラリアに抜けている。
- (2003年-05年 米、英、独、日本)
- 梶田教授 研究者数、研究時間、研究費 の減少

辻井の意見付加

- 研究文化が社会的に理解されていない
-
- 自由な発想の尊重
- 総合性・異分野との融合性の尊重
- 評価は難しい ファラディ が電磁現象を発見した際
- 英総理大臣 「これ何の役に立つの？」
- ファラディ 「生まれたばかりの子が、将来？」
-
- 現在 短期的・計画的・実用化研究に重点
- 会計文化 > 研究文化 会計にも時間の視点が欲しいが？
- 会計文化 切り分け文化 何故、異分野の本を買う？

経営者からの研究支援

- LED中村氏 初代社長「研究支援が生き甲斐」
 - (大河内賞審査の為、日亜化学訪問時)
- 光通信研究の先駆者 末松東工大元学長
- マイクロ波通信研究の時代
某社社長「見返りは期待しないから、自由に研究して欲しい」
- 現在は、過管理 (over compliance)

朝日新聞 2018-9-28

教えて 日本の科学力-3

- 総合科学技術・イノベーション会議の某議員
「研究のために必要なお金を競争で取ってくるのは当然。」

実用化段階の資金は別として。

競争的資金の課題

- (1) 「伯樂出でよ」と言っても無理。優れた評価者は極めて少ない。
大方は流行に靡く(情報分野は、一時はAIでないと駄目?)
- (2) 時間の消費
貴重な研究時間を 申請書執筆に取られる。競争率10倍以上も多い。
評価者(辻井もかって)の二重性 (審査する立場になるとチャンと書いてある?)
採択されれば、報告書書き(計画書通り進捗しているか?)

伯楽は少ない 競争的資金の課題

- 山中伸弥先生 の場合は元阪大総長が伯楽？
- LEDの学会 仄聞するところによれば、
- 窒化ガリウムの利用について、赤崎・天野教授が発表した際、
聴いていたのは、司会者と 中村博士のみ→後に3名ノーベル賞
- 隣の部屋(シリコン)は満員→ 実用化されず。

対策は？

- 辻井の周边的提案
- 現役世代 任期付き 明日の生活費 短期的成果要請
- (40歳未満教員 63%は任期付き)
- シニア(年金)世代研究者の活動・活用
 - 取りあえず生活は保障。
 - 自由な時間・発想も。
 - 研究場所(居場所、議論の場所) があれば。
 - 中央大学研究開発機構の場合 ポストク～シニア

日本人相互の研究成果への評価消極的

- 明治維新の後遺症？ いや平安時代以来のDNA？
- 日観集 大江惟時
- 「遠き(漢詩)を尊びて、近き(和歌)を卑しむは・・・」
- 意識改革が必要